

7 - 6 兵庫県神戸市・芦屋市・西宮市における短い測点間隔の水準繰り返し観測結果 (1995年6月・7月～1995年3月)

Level changes in Kobe, Ashiya and Nishinomiya cities, Hyogo Prefecture
(June・July-March, 1995)

地 質 調 査 所
Geological Survey of Japan

平成7年兵庫県南部地震の後、神戸市長田区から西宮市までの平地を主な対象として、短い測点間隔の水準の繰り返し観測を行なっている。この観測は地震によって生じた多くの地割れ等、地盤の変状に対し、地震後の変化について検討するために実施しているが、観測結果にはやや広域的な変化が認められ、より深部の変動が関係している可能性がある。観測の方法と1995年3月から6・7月までの期間における上下変化について報告する。

観測路線は主に南北方向に設定し、東西方向の路線によって一等水準点へつながるものとしている(第1図)。測点の間隔は、南北方向の路線で約25m、東西方向の路線で約100mである。主に道路の歩道等に鉋を設置し測点としている。一部は既設の公共基準点を利用している。本報告の観測結果はいずれも1級水準測量によるものである。

測点の大部分は平成7年3月に設置し、水準測量を行なった。それらの一部について6月から7月にかけても水準測量を行ない変化量を求めた。第2図は、この上下変化の分布を示したものである。各地区毎の基準点(一等水準点)を不動とした場合の相対的变化である。この上下変化のうち、連続的でない局地的な変化の多くは、工事等が行なわれている場所に対応し、人為的な影響によるものと考えられる。これら以外の変化の全体的な分布には、各路線毎に次のような傾向が認められる。

路線1 - 1では国道2号線付近を中心とする相対的隆起部が認められる。

路線2 - 1では兵庫運河付近から海側で徐々に沈降量が大きくなる変化が認められる。

路線6 - 2では国道2号線付近を中心とする相対的隆起部が認められる。

路線7 - 1では阪急の北側付近から海側で、山側ほど相対的隆起量が大きい傾動の変化が認められる。

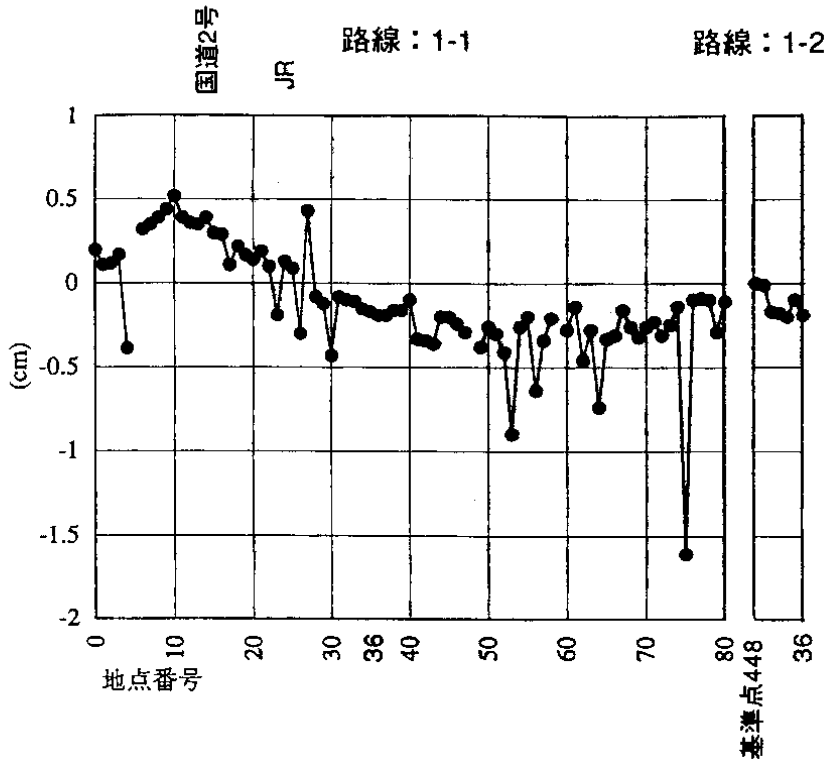
(遠藤秀典・渡辺和明・牧野雅彦・村田泰章・渡辺史郎)



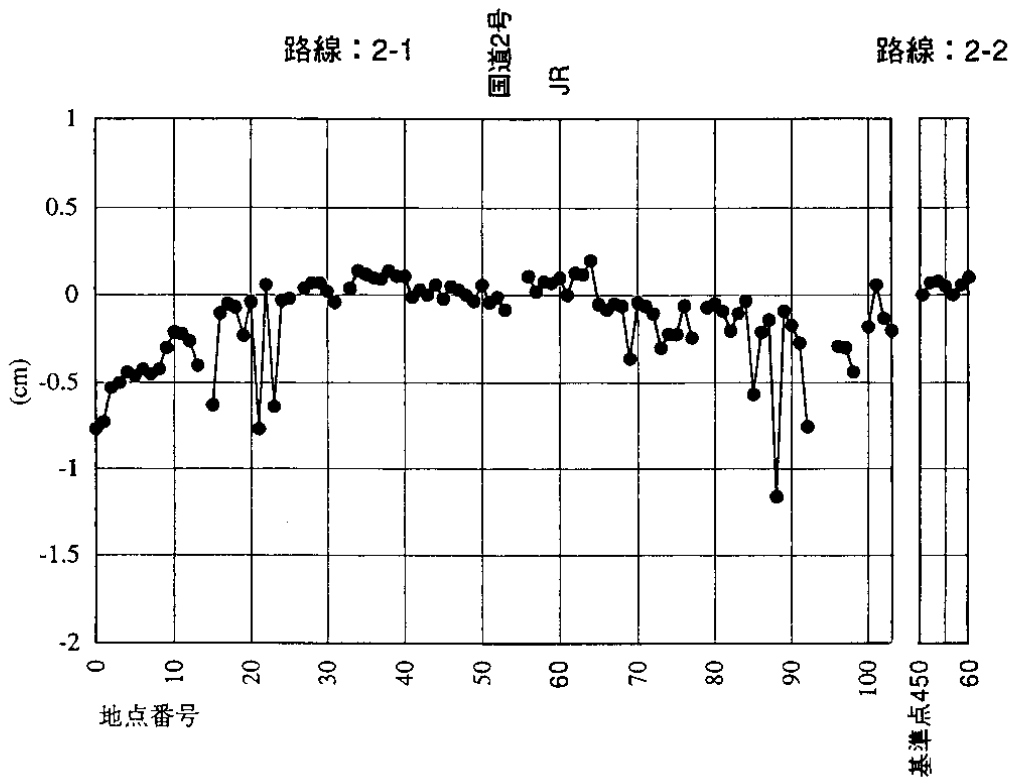
第1図 観測路線位置図（基図には、国土地理院発行の2万5千分の1地形図「神戸首部」「神戸南部」「西宮」を使用）。

Fig. 1 Location of the observation lines.

第1地区、1995年6・7月測定値-1995年3月測定値



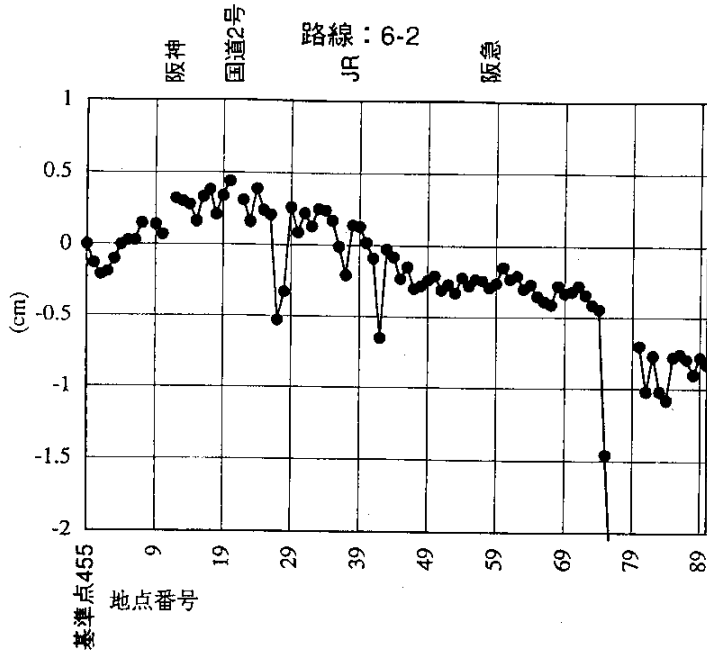
第2地区、1995年7月測定値-1995年3月測定値



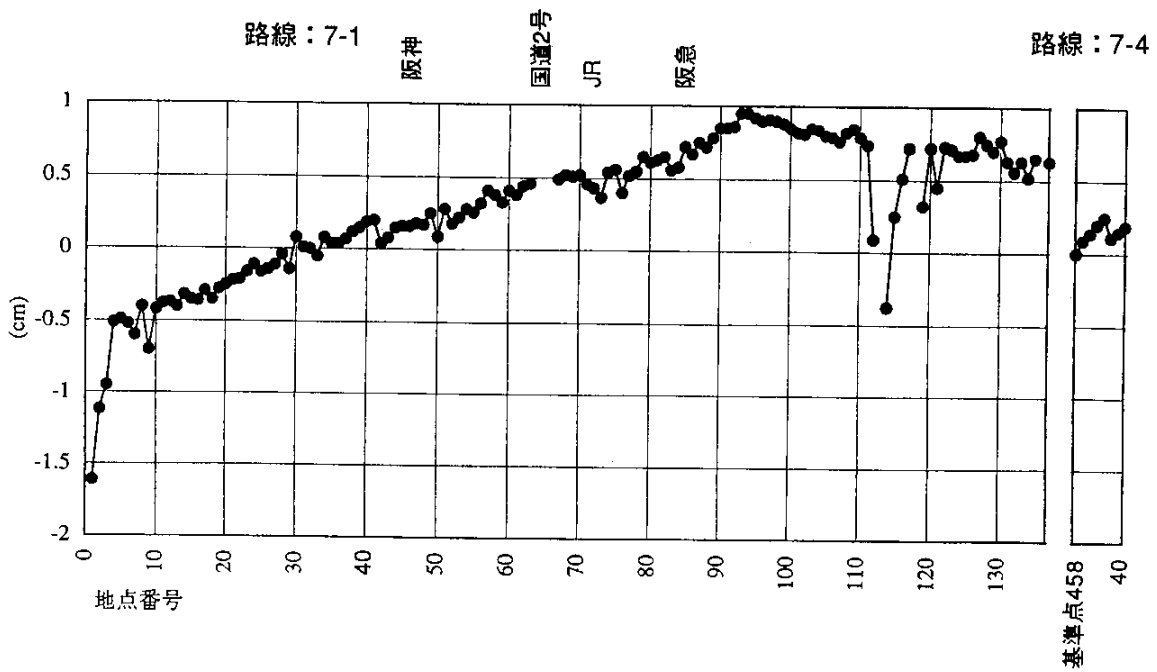
第2図 神戸市及び芦屋市における上下変化（1995年6・7月～1995年3月）

Fig. 2 Level changes along the observation lines in Kobe and Ashiya cities. (June・July-March, 1995)

第6地区、1995年7月測定値-1995年3月測定値



第7地区、1995年6月測定値-1995年3月測定値



第2図 つづき

Fig. 2 (Continued)